

にこにこ きらきら ゆめにむかって



おともがわ

学校報 No.52
保護者版
平成 30 年 3 月 20 日

みんなで育む豊かな心・健やかな体・確かな学力

卒業・修了おめでとうございます

3月15日、小学校の全課程を修了し「げんき学年」の10名が卒業しました。学校の様々な行事の中で、いつも全校のよきリーダーとして真面目に活動してくれていた6年生でした。卒業式でも、その真面目さや真っ直ぐな気持ちが呼びかけや歌によく表れていました。当日の天候と同じく、温かな気持ちの良い卒業式となりました。

そして、今日は修了式でした。今日の修了式をもって、内小友小学校の一年間の教育活動が終了いたしました。これまでのご家庭の皆様の温かな励ましに、改めて感謝申し上げます。

子どもは、地域の自然、文化、そして人の愛情で育ちます。けんかをしてでも仲直りをする中で、人との関わり方を学びます。思い通りにならないことがあってこそ、我慢することを学びます。こうした子どもの育ちの根底になくってはならないものは、ご家庭の愛情による安定感、安心感をもたせることです。子どもは、愛されているという安心感から、さらなる自信や意欲をもち、自分や周りの人のよさに気付いて、それを大切にしようとしみます。だからこそ、周りのために我慢しようとする心も生まれるのです。家庭は子どもたちの活力源です。本校の子どもたちが真面目で素直なのは、ご家庭で深い愛情を受け、「家族の絆」を強めているからだと思います。

子どもは、親の姿を見て育ちます。親が前向きだと子どもも前向きになります。親が後ろ向きだと子どもも後ろ向きになるでしょう。「育てたように子どもは育つ」といわれる所以です。以下は、「アメリカンインディアン」の引用です。

子どもたちは、こうして生き方を学びます。

批判ばかり受けて育った子は、人をけなすようになります。

いがみあう家庭で育った子は、人と争うようになります。

恐れのある家庭で育った子は、びくびくするようになります。

かわいそうだと哀れんで育てられた子は、自分が哀れな人間だと思ふようになります。

ひやかしを受けて育った子は、はにかみ屋になります。

親が他人に対して嫉妬ばかりしていると、子どもも人を羨むようになります。

侮辱したりけなしたりされて育った子は、自分に自信をもてなくなります。

励まされて育った子は、自信をもつようになります。

寛大な家庭で育った子は、我慢することを学びます。

ほめられて育った子は、感謝することを学びます。

心から受け入れられて育った子は、愛することを学びます。

認められて育った子は、自分が好きになります。

子どものなしとげたことを認めてあげれば、目的をもつことの素晴らしさを学びます。

分かち合う家庭で育った子は、思いやりを学びます。

正直な家庭で育った子は、誠実であることの大切さを学びます。

公明正大な家庭で育った子は、正義を学びます。

やさしさと、思いやりのある家庭で育った子は、他人を尊敬することを学びます。

安心できる家庭で育った子は、自らを信じ、人をも信じられるようになります。

和気あいあいとした家庭で育った子は、この世の中はいいところだと思えるようになります。

子どもたちがやがて世に出るときのふるさとは、内小友であり、内小友小学校です。そして、その根底は、安らぎのふるさとであるご家庭です。内小友で育ったこと、内小友小学校で学んだこと、そして温かな家庭で育ったことを胸に、力強く生きていける人であってほしいと思います。

今年度の私たち職員の合言葉は「UCHIOTOMO PRIDE」でした。本校の職員であることを誇りに思い、そう思えるような実践をするためでした。今思えば、「あの時、こうしていればよかった。」「あの時、こう指導するべきだった。」と思うことが多くあります。おそらく担任も同じ思いでしょう。しかし、あの時はあの時で、精一杯やっていたのです。それが我々の力の限界だったのだと思います。これからも私たち職員は、子どもたちの成長を振り返りながらも、一人一人の課題を明らかにし、その改善に向けて来年度も心を含めて指導にあたりたいと思っています。

ご家庭では、お父さん、お母さんの言葉で子どもの成長を語り、卒業・進級を祝ってあげてください。子どもたちは、大きな自信と深い愛情を感じるにちがいありません。それが、新年度へのエネルギーになると考えます。

今年度の教育活動にあたり、保護者の皆様から、ご支援・ご協力をいただきましたことに心から感謝申し上げます。新年度も変わらぬご理解とご協力をお願いいたします。

修了式で作文の発表がありました。紹介します。

かっこいい二年生になりたいな

一年 ○○ ○○

ぼくは、さいしょ音どくでじょうずによめませんでした。そのとき、○○さんがやさしくおしえてくれました。「ここは、こうよむんだよ。」

と、ことばのくぎりをおしえてくれました。そしたらよみやすくなってじょうずによめるようになりました。

もう一つよくなったことがあります。入学したばかりのころ、どうとくでじぶんのやさしさをかんがえたら、多くのやさしさはちよっぴりしかありませんでした。だから、よくけんかになりました。でも、ともだちとけんかしたとき、

「ごめんなさい。」

と言えるようになりました。今では、やさしさがマックスになりそうです。

がっこうでべんきょうしたり、あそんだりして、できないこともできるようになりました。

二年生になったら、がんばりたいことが二つあります。一つ目は、チャレンジテストでかん字王になることです。二つ目は、ものを大せつにすることです。この二つをがんばって、かっこいい二年生になりたいです。

五年生で成長したこと 六年生でがんばりたいこと

5年 ○○ ○○

五年生で成長できたと感じたことは、二つあります。

一つ目は、問題をしっかり読むことです。私は、三年生のときからずっと、社会が苦手でした。ですが、あることをしたら、少しこくふくできたような気がしました。それは、問題をしっかりと読むことです。今、何を聞かれているか、この問題の一番重要な所はどこかなど、たくさんのポイントを見つけ出して、マーカーで線を引きました。すると、「今求めるのはコレだ!」とはっきり分かりました。

二つ目は、進んで行動したり、話したりすることです。今年度は、色々なことに、たくさん立候補しました。そして、器楽部の副部長になることができました。また、友達との会話でも、進んで意見を言えるようになりました。考えがちがってケンカしたり、言い合いになったりもしましたが、お互いの意見を認め、成長することができました。

このように、今年度は、心も体も、たくさん成長できました。

そして、六年生になってがんばりたいことは、周りの人にたくさんやさしい言葉をかけてあげることです。今年の六年生は、私に、

「がんばったね。」

などと、たくさんのやさしい言葉をかけてくれました。おかげで、いつも元気でいられました。やさしい言葉をかけてもらった人もうれしいし、かけた人もよい気持ちになれると思います。「思いやり」への第一歩にもなるはずですよ。

やさしい気持ちで、みんなのアコガレの六年生になれるよう、がんばりたいです。